
不思議なランナー

七海珠梨亜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不思議なランナー

【Nコード】

N4139D

【作者名】

七海珠梨亜

【あらすじ】

持久走が死ぬほど嫌いな水谷沙良。そこへちよつと変わった転入生がやって来る。沙良の持久走タイムは一変する。

「もうマジきついしー！ー！！！」

うちの学校には毎年冬になる

と、持久走が始まる・・・

私。水谷沙良はこの時間を嫌う多くの人々の一人だ。私は体力がなく、運動場2キロを走るとい

この時間は、地球上のなによりも嫌で過酷なことだった。そんなある日・・・うちの学校に転校生がやってきた。彼女の名前は織原伊吹。ととのった顔立ちでひとときわ目を引く、とてもキレイな転校生だった。そして私の最も嫌いな持久走の時がきた。するといきなり、転校生の彼女が声をかけてきた。 「ねえ、持久走得意？私は結構好きなの。何か気持ちよくない？」 そういつてきた。

はアー！ー？？？何言つてんだこいつ！！！！

そう思いながらも何の

罪のない彼女に怒っても仕方ないので、

「そうなの？私は大嫌いだけど。死んだほうがいいくらいね！！」私は少しきれたように言った。

その時に変わった彼女の顔を見て、少し怖くなった。とても冷たい瞳に真っ青な顔。私は今でも目に焼き付いて離れない・・・

その日から彼女は持久走のときだけ現れるようになった。私は声をかけた。 「織原さん。もうすぐ持

久走大会があるね。織原さんもでるんでしょ？」

彼女は少し寂しそうな表情をして、にこりと笑い、

「ええ。一緒にがんばろうね・・・」と答えた。

|||||||持久走大会当日|||||||

私は苦手な持久

走だったけど、すっかり忘れて織原さんを探した。

あの日の怖い顔と、寂しそうに笑う表情が忘れられなかったからである。 織原さんは

いなかった。すると樹の陰に立って、こっちをじっと見ている織原さんの姿が見えた。 急いで駆け寄り、彼女のもとへ向かった。

「織原

さん、何してんの？始まるよ！急がなきゃ！！」私は彼女の手を引っ張った。 「私、行けないの。すぐ走りたい。」

でも無理なの！！」

なんで？怪我でもしてるの？？」

「私はね・・・10年前の今日 持久走大会の日。通学途中の事故にあって死んだの。飲酒運転の車につっこまれて・・・私の一番好きだった持久走にでられなかったの。だから、持久走を嫌ってるあなたを見て、ほっとけなかったの。ごめんなさい。隠してて・・・」

「いいよ！！じゃあ私の体使いなよ！思い切り走って、心残りがなくなれば、きっと大丈夫だからさ！私も伊吹と会えて嬉しかったよ！」

「ありがとう・・・」彼女の目には涙があふれている。彼女は消え、私の意識もなくなった。 気が付くとスタートラインに立っていた。ピストルの音と共に、私の体はものすごいスピードを出して、進んだ。私は1位になっていた。するとすーっと意識がまた飛んで自分の体にちゃんと戻った。そこには、伊吹が立っていた。

「ありがとう！沙良。本当に・・・持久走がんばってね！！」伊吹の目頭は熱く、赤くそまっていた。 「成仏しても私のこと忘れないでねー！！約束だよー」私は涙がとまらなかった。 伊吹はすーっと消え、空に帰っていった・・・

私はこれを きっかけに持久走が嫌いじゃなくなった。相変わらず順位は最悪だ

けど、走ることが楽しいと思えるようになった。伊吹の言った意味がやっとわかった。私は絶対伊吹のことを忘れないと思う。だから言いたい。持久走が嫌いな人・・・たとえ遅くてもいいじゃないか。誰かに指を指されて笑われてもいいじゃないか。その時はかわいそうな人だと思ってとおりすぎればいい。

伊吹み
たいな幽霊が、あなたのところへ迷い込んでしまいかもしれないか
ら・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4139d/>

不思議なランナー

2010年11月18日14時41分発行